



九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

第5回日韓学生フォーラム九州

学生25人筑豊・水俣を訪ねた

両国の歴史を知る大切さ学ぶ

今回で5回目、3年目になる日韓学生フォーラムは1月末から5日間、九州の筑豊・水俣を巡った。九州には炭鉱の人々、朝鮮半島から来た働いた人々、水俣病で苦しむ人々の姿を追い続けた上野英信、林えいた、石牟礼道子といった「記録作家」がいた。その人たちの足跡も追える企画だ。日韓合わせて25人の学生が参加した。

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

2020年2月25日 ジャーナリスト

不知火の海
水俣の海、不知火海は青く、そして穏やかだ。水俣病が大きな問題になった当時も、今のようにはきれいだっただろう。胎児性水俣病の患者として語り部の活動を続けている男性は「水俣病のように危険だとわかってきたのに放置していた国の責任は重い。3・11

後の福島原発の問題も同じこと、だからこそ原発を止めていくことに精一杯努めていきたい」と語った。男性の視線は水俣から広がっていく。

記者として水俣病を長年取材してきた熊本日日新聞の高峰武論説顧問は「水俣は訪れた人の想像力を試している。きれいな海を見て、ではそこで何を見たのか。自分たちが帰った場で、水俣を一つの座標軸として、スタートの場としてほしい」と語りかけた。(写真)

そしてジャーナリストとして、自立と自律の2つの「シリツ」を持つこと。さらに物事を捉えるにあたり、楢田のように2つの中心を持つ「楢田の思想」が必要なることを将来のジャーナリストたちへアドバイスした。

フォーラムでは毎回最終日に、学生たちが一番印象に残ったことを、自分が撮った写真と合わせて発表し合った。連日連夜語り合った、それぞれの集大成だ。

思いを語る
今年の春、地方紙の記者になる女子学生は「自分の県の歴史をもっと勉強しなければ。フタをすただけでは差別はなくなる。そこに住む人たちの思いを汲み取れる記者になりたい」と決意を述べた。

韓国から参加し、兵役のため一足早く帰国した男子学生は「日本の記者が韓国の歴史を、韓国の記者が日本の歴史を学ぶことは大切だと思えます。そして植民地時代の歴史は日韓が共有できる歴史、日本の地にある韓国人の歴史です。ジャーナリストとして伝えていくべきことだと思えます」とメッセージを寄せた。

吉川英一

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

吉川英一

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

「九州と朝鮮半島は近い、お互いの歴史を知ることが理解の第一です。そしてジャーナリストの仕事は、歴史を記録していくことです。日本と韓国のジャーナリストを、九州で映像ジャーナリストとして活動する西嶋真司さんは訴えた。」

吉川英一

日本「デマゴーグ国家」

ジャーナリストは真実を知らせるのが仕事

西山元毎日記者が語る

1969年から始まった沖繩返還交渉は、時の佐藤栄作首相が自分の任期内に実現しようとする期限を区切った段階で、交渉としては米国に敗北。その結果、国民向けには「核抜き本土並み」としながらも実態は「有事核つき自由使用」で1972年の沖繩返還を果たした。その経緯は国民に知らされていなかったと西山さんは指摘する。さらに、その後のイラク戦争においても、実は米国の要請で航空自衛隊が、戦域地域に多数の兵士を輸送していたことが判



西山元吉さんは元気だ。90歳近いが、1月29日、福岡市

たことが判

たとして、沖繩返還の「核抜き本土並み」というのは国の2つのデマである」と批判した。そのうえで、西山さんは「日本が民主主義国家平和国家という印象があるが、そうではなく実際に起きていることをカモフラージュするデマゴーグの技術を持った国家である。だからこそ、そうした実情を知って提示していくのが、本来のジャーナリストの仕事だ」と学生たちに訴えかけた。

西山さんの記者として打ち込んだ沖繩返還の問題を、歴史的な眼で捉え、伝えていくという強い熱意は90歳近いとは思えぬほど力強かった。

吉川英一